

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
 - 2 単元の評価規準の作成のポイント
 - (1) 生活科における単元及び単元の目標を作成する手順
 - (2) 単元の評価規準, 小単元における評価規準の作成の手順
- ※ 補足資料「具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)」

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

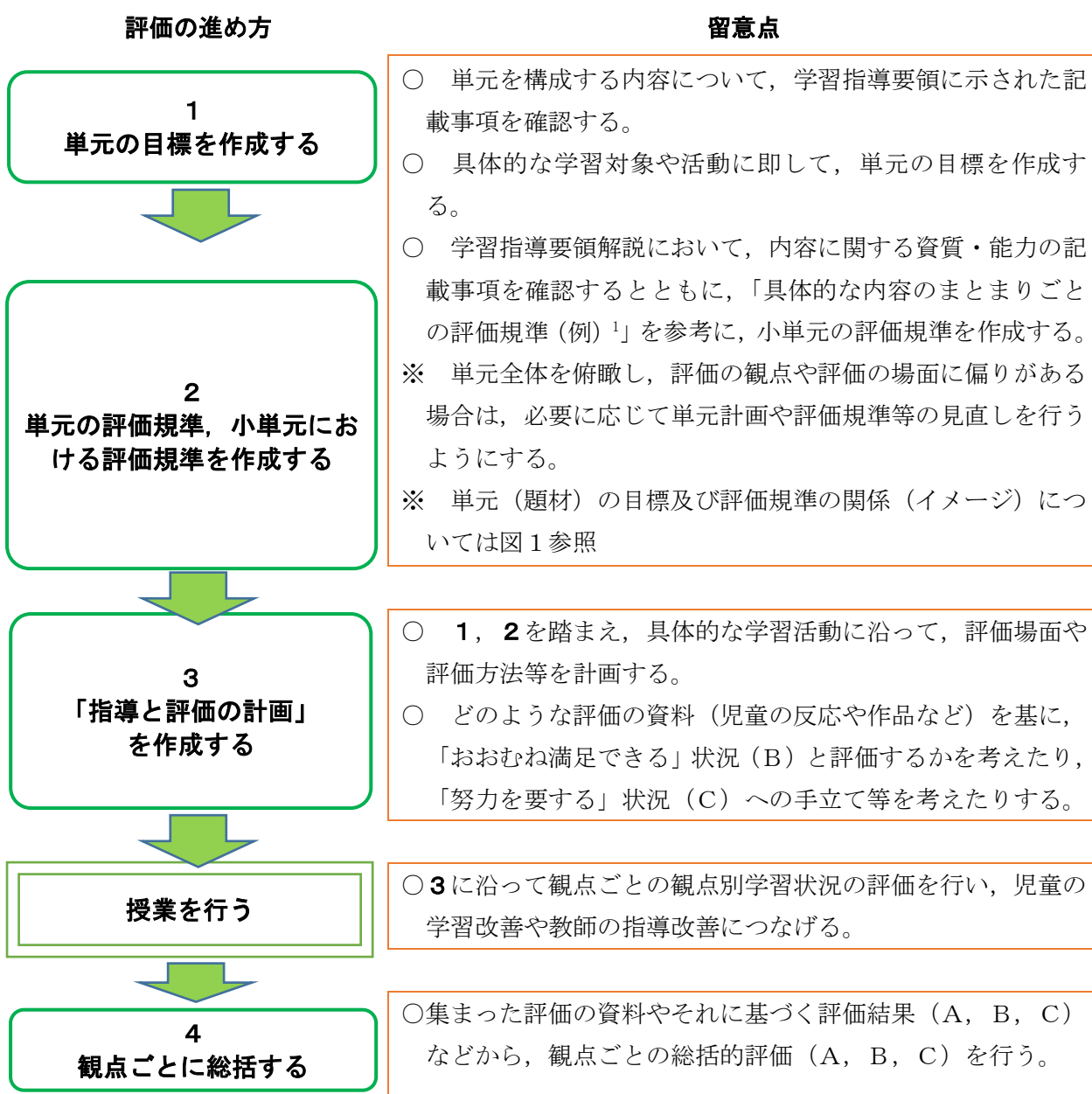
事例

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

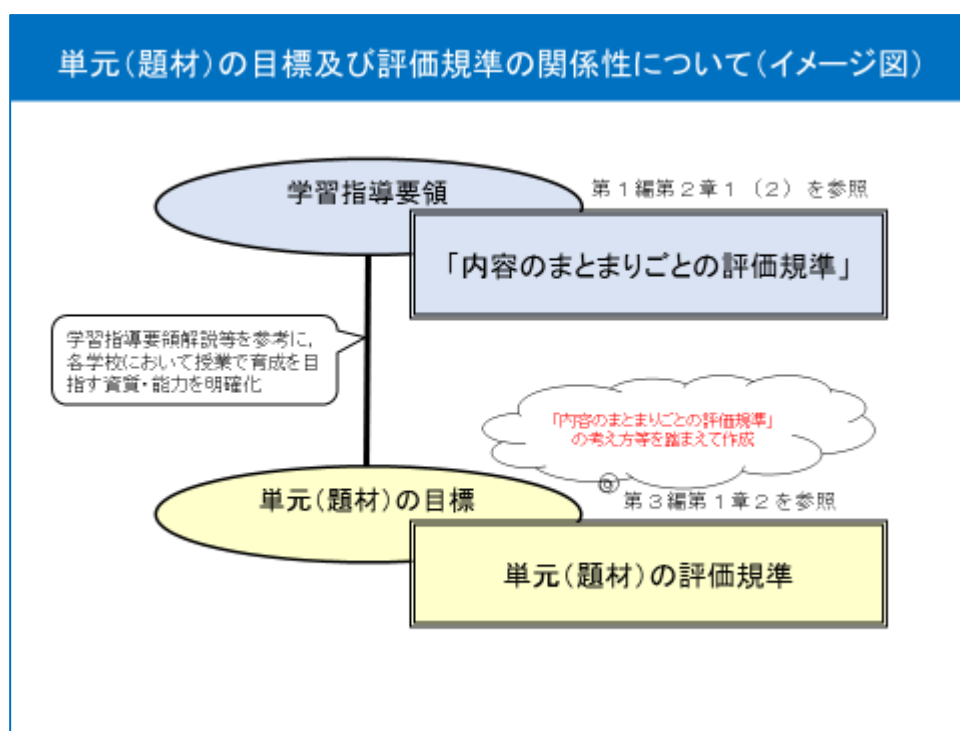
1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。



¹ 補足資料

図 1



※ 調整中

2 単元の評価規準の作成のポイント

(1) 生活科における単元及び単元の目標を作成する手順

生活科における「内容のまとまり」は、学習指導要領に9つの内容として示されている（表1）。

表1 生活科における「内容のまとまり」

生活科における「内容のまとまり」	
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	内容(1) 学校と生活
	内容(2) 家庭と生活
	内容(3) 地域と生活
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	内容(4) 公共物や公共施設の利用
	内容(5) 季節の変化と生活
	内容(6) 自然や物を使った遊び
	内容(7) 動植物の飼育・栽培
	内容(8) 生活や出来事の伝え合い
自分自身の生活や成長に関する内容	内容(9) 自分の成長

生活科の単元は、内容(1)～(9)を基に、各学校が意図的、計画的に構成するものである。また、次のような生活科の単元の特徴を大切にすることが重要である。

- 児童が、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現していく必然性のある学習活動で構成する。
- 具体的な活動や体験を行い、気付きを交流したり活動を振り返ったりする中に、児童一人一人の思いや願いに沿った多様な学習活動が位置付く。
- 学習活動を行う中で、高まる児童の思いや願いに弾力的に対応する必要がある。
- それぞれの学校や地域の人々、社会及び自然に関する特性を把握し、そのよさや可能性を生かす。

各学校には、このような生活科の単元の特徴を大切にしたり、児童の実態を考慮したりしながら、2年間にわたって各内容をどの学年でどのように扱うかを構想し、妥当性・信頼性のある評価を行えるよう創意工夫した単元計画を作成することが求められる。

生活科において単元を作成するに当たっては、1内容で1単元を構成する場合と、複数内容で1単元を構成する場合が考えられる。単元の目標は、単元を構成する内容に基づき、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとまり」の記載事項を踏まえるとともに、具体的な学習対象に即して作成することになる。複数内容を組み合わせて単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないように気を付けなければならない。

なお、幼児期の学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を截然と分けることができないことから、生活科においては教科目標に示した資質・能力の末尾が「の基礎」となっている。このことを踏まえ、単元の目標の作成に当たっては、育成する資質・能力を総括的に示すなどの工夫が必要である。

以下に、**単元の目標を作成する手順**とともに、単元を1内容で構成した場合（例1）と、単元を2内容で構成した場合（例2）の作成例を示す。

〔単元の目標を作成する手順〕

- ① 単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。
- ② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

（例1） 第2学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」に基づいた作成の手順

- ① 単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

内容(7)「動植物の飼育・栽培」

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

- ② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

〔単元の目標〕

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気付く、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

（例2） 第1学年 内容(5)「季節の変化と生活」と内容(6)「自然や物を使った遊び」に基づいた作成の手順

- ① 単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

内容(5)「季節の変化と生活」

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに関心をもつとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しもうとする。

内容(6)「自然や物を使った遊び」

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

- ② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

〔単元の目標〕

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

（２）単元の評価規準，小単元における評価規準の作成の手順

生活科は，児童が具体的な活動や体験を通す中で，あるいはその前後を含む学習の過程において，文脈に即して学んでいくことから，評価は，活動や体験そのもの，すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われる。そのためにも，単元の評価規準及び一連の具体的な学習活動のまとまりである小単元における評価規準を具体的な児童の姿として作成することが大切である。

以下に，**単元の評価規準及び小単元の評価規準の作成の手順**とともに，単元を１内容で構成した場合（例１）と，単元を２内容で構成した場合（例２）の作成例を示す。

〔単元の評価規準を作成する手順〕

- ① 単元の目標を確認する。
 - ② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ，単元の評価規準を作成する。
 - ③ 学習指導要領解説において，内容に関する資質・能力の記載事項を確認するとともに，「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に，小単元の評価規準を作成する。
- ※ 単元全体を俯瞰し，評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は，必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行うようにする。

（例１） 第２学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」に基づいた作成の手順

- ① 単元の目標を確認する。

〔単元の目標〕

モルモットを飼育する活動を通して，モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ，モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気付く，モルモットへの親しみをもち，生き物を大切にすることができるようにする。

- ② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ，単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
モルモットを飼育する活動を通して，モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに <u>気付いている</u> 。	モルモットを飼育する活動を通して，モルモットの変化や成長の様子に関心をもって <u>働きかけている</u> 。	モルモットを飼育する活動を通して，モルモットへの親しみをもち，生き物を大切に <u>しようとしている</u> 。

- ③ 学習指導要領解説において、「内容に関する資質・能力の記載事項」²を確認するとともに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」³を参考に、小単元の評価規準を作成する。

学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとは、動植物の飼育・栽培を行う中で、動植物が変化し成長していることに気付き、生命をもっていることやその大切さに気付くことである。	それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができとは、動植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味や関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願って行なうことである。	生き物への親しみをもち、大切にしようとするとは、生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして世話しようとするものである。
具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に小単元における評価規準を作成する。		

小単元における評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1			
	2	※単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行うようにする。		
	3			

² 補足資料参考

³ 補足資料参考

(例2) 第1学年 内容(5)「季節の変化と生活」と内容(6)「自然や物を使った遊び」に基づいた作成の手順

① 単元の目標を確認する。

〔単元の目標〕

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができる。

② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに <u>気付いている</u> 。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫して <u>つくったりしている</u> 。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しく <u>しようとしたり</u> 、みんなと楽しみながら遊びを <u>創り出そうとしたりしている</u> 。

③ 学習指導要領解説において、「内容に関する資質・能力の記載事項」を確認するとともに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に、小単元の評価規準を作成する。

学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項

知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
・季節によって生活の様子が変わることに気付くとは、身近な自然の共通点や相違点、季節の移り変わりに気付いたり、季節の変化と自分たちの生活との関わりに気付いたりすることである。〔内容(5)〕 ・その面白さや自然の不思議さに気付くとは、遊びや遊びに使う物を工夫してつくことで、児童が、遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにすることである。〔内容(6)〕	・それらの違いや特徴を見付けることができとは、身近な自然や行事に興味をもち、それらを観察したりそれらに関わったりすることを通して、そこには同じ性質や変化があること、異なる特徴や違いがあること、時間の変化や繰り返しがあること、などに注意を向け、自覚することである。〔内容(5)〕 ・遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができとは、試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに	・それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとするとは、自然との触れ合いや行事との関わりの中で、気付いたことを毎日の生活に生かし、自分自身の暮らしを楽しく充実したものにしようとするすることである。〔内容(5)〕 ・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとするとは、自分と友達などとのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、毎日の生活を豊かにしていくことである。〔内容(6)〕

	使う物を工夫してつくったりして考えを巡らせることである。〔内容(6)〕	
具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に小単元における評価規準を作成する。		

小単元における評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1			
	2	※単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行うようにする。		
	3			

育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準の作成のポイント

(1) 知識・技能

生活科における「知識・技能の基礎」については、学習指導要領解説生活編に「活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然やそれらの関わり等についての気付きが生まれることが考えられる。生活科における気付きは、諸感覚を通して自覚された個別の事実であるとともに、それらが相互に関連付けられたり、既存の経験などと組み合わせられたりして、各教科等の学習や実生活の中で生きて働くものとなることを目指している。また、このような過程において、生活上必要な習慣や技能も活用されるものとして身に付けることを目指している。」と説明されている。

この資質・能力を評価するに当たっては、①気付きが自覚されること、②個別の気付きが相互に関連付くこと、③対象のみならず自分自身についての気付きが生まれること、を気付きの質の高まりとして見とることが大切である。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要がある。

評価規準を作成する際は、以下を参考にすることが考えられる。

「知識・技能」のうち、知識に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「〇〇に気付いている」、「〇〇が分かっている」などとして作成する。

※ ○○には、知識の具体を記述する。

「知識・技能」のうち、技能に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「△△において（の際）、○○している」などとして作成する。

※ △△には学習活動を、○○には学習指導要領解説生活編（P14）に示した習慣や技能を参考にして、具体を記述する。

(2) 思考・判断・表現

生活科における「思考力、判断力、表現力等の基礎」については、学習指導要領解説生活編に「思いや願いの実現に向けて、『何をするか』『どのようにするか』と考え、それを実際に行い、次の活動へと向かっていく。その過程には、様々な思考や判断、表現が存在している。思いや願いを実現する過程において、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えたり表現したりすることができるようにすることを目指している。」、「ここでいう『考える』とは、児童が自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動により、分析的に考えることである。また、試す、見通す、工夫するなどの学習活動により、創造的に考えることである。『表現する』とは、気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって、他者と伝え合ったり、振り返ったりすることである。」と説明されている。

この資質・能力を評価するに当たっては、①見付ける、②比べる、③たとえる、など示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、など示された創造的に考えることを踏まえる必要がある。

評価規準を作成する際は、以下を参考にすることが考えられる。

「思考・判断・表現」に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「○○して（しながら）、△△している」などとして作成する。

※ ○○には、具体的な学習活動において期待する思考を、△△には具体的な児童の姿を記述する。

※ 思考を具体的に表したものとして、以下も参考にすることができる。

① 見付けて（見付けながら）

・思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら など

② 比べて（比べながら）

・特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら など

③ たとえて（たとえながら）

・知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えて、見立てて など

④ 試して（試しながら）

・実際に確かめながら、調べたりやってみたりして、練習しながら など

⑤ 見通して（見通しながら）

・思い描きながら、予想しながら、振り返って など

⑥ 工夫している（工夫しながら）

・生かしながら、見直して など

※ 具体的な児童の姿として、以下が考えられる。

- ・観察している，関わっている，記録している，方法を決めている，表している，集めている，楽しんでいる，遊んでいる，交流している，捉えている，知らせている，利用している，伝え合っている，計画を立てている など。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

生活科における「学びに向かう力，人間性等」については，学習指導要領解説生活編に「思いや願いの実現に向けて，身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し，それが安定的に行われるような態度を養うことを目指している。」と説明されている。

この資質・能力を評価するに当たっては，

- ① 「粘り強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること
- ② 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- ③ 「実感や自信」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返し，安定的に行おうとしていること

などを踏まえる必要がある。

評価規準を作成する際は，以下を参考にすることが考えられる。

「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準（例）

- ・評価規準の構造を「〇〇し，△△しようとしている」などとして作成する。

※ 具体的な学習活動に即して，〇〇には①粘り強さ，②学習の調整，③実感や手応え，に関して具体的に表したものを，△△には具体的な児童の姿を記述する。

補足資料 「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」（案）

内容（１）学校と生活

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができる。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
内容のまとめりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かっている。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えている。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
関わりを深めた施設や人々について、それらの位置や働き、存在や役割などの特徴に気付き、それらと自分との関わりに気付くだけでなく、それらがみんなのためや安全な学校生活のためにあることの意味を見いだすことである。	児童が学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路やその安全を守っている人々や、それらが自分とどのように関わっているかを考えることである。	学校の施設、先生や友達などに関心をもって関わろうとすること、思いや願いをもって施設を利用しようとする、ルールやマナーを守って安全に登下校しようとするなどである。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 学校の施設の位置や特徴、役割、学校を支えている人々の存在や働きなどが分かっている。 - みんなで学校の施設を利用する楽しさやよさに気付いている。 - 学校の人々や施設がみんなのためや安全な学校生活のためにあることが分かっている。 - 通学路の様子や危険な箇所、安全を守っている施設や人々の存在が分かっている。 - 学校の施設を使用する際、みんなで気持ちよく使用するためのきまりやマナーを守っている。 - 登下校において、安全を意識して通学路を歩いている。	- 学校の施設の位置や特徴を意識して、行ってみたい場所ややってみてみたいことを選んでいる。 - 学校の施設や人々との関わりを思い描きながら、利用の仕方やマナーについて考えたことを交流している。 - 学校の施設の利用の仕方やマナーについて考えたことを生かしながら、利用している。 - 毎日の登下校において自分たちの安全を守ってくれる人々を思い起こして、感謝の気持ちを表している。	- 学校の施設をもっと知りたい、先生や友達などと親しくなりたいという思いをもって、それらと関わろうとしている。 - 学校の施設の利用の仕方やマナーに応じて、楽しく遊んだり生活したりしようとしている。 - 通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら、安全な登下校をしようとしている。

内容（２）家庭と生活

家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。	家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができる。	家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。
内容のまとまりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かっている。	家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。	家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
家庭生活においてそれぞれのよさや果たしている仕事、役割があること、それらと自分との関わりに気付く、家庭での生活は互いを思い、助け合い、協力し合うことで成立していること、自分も家庭を構成している大切な一人であることが分かることである。	家族一人一人の存在や仕事、役割、家庭における団らんなどが、自分自身や自分の生活とどのように関わっているかを考えることである。	自分の生活を見つめ直すことを通して、自分の役割を自覚し進んで取り組んだり、生活のリズムや健康に気を付けた暮らしを継続していくとすることである。
具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 家庭生活には、それぞれの果たしている仕事や役割があることが分かっている。 ・ 家庭の温かさ、家族一人一人のよさが分かっている。 ・ 自分でできることや自分の役割に気付いている。 ・ 家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。 ・ 自分も家庭を構成している大切な一人であることに気付いている。 ・ 日常生活において、生活のリズムや健康を大切にしている。	・ 家庭生活を思い起こし、家族のことや自分のこと、自分がしていることについて表現している。 ・ 家族の存在や役割、喜ぶことを意識して、自分でできそうなことを集めている。 ・ 家庭生活におけるそれぞれの役割を見直しながら、自分の取り組み方を決めている。 ・ 家庭生活をよりよくするために取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。	・ 家族のことに興味をもち、家庭生活を見つめようとしている。 ・ 家族のためにという願いをもって、自分でできることに何度も繰り返し取り組もうとしている。 ・ 家庭生活をよりよくするために自分の取組を見直しながら、自分の役割を果たそうとしている。 ・ 生活のリズムを整えたり、健康に気をつけたりするようになった自分に自信をもって、生活しようとしている。

内容（３）地域と生活

地域と関わる活動を通して，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ，自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり，それらに親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりしようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等
地域に関わる活動を通して，自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。	地域に関わる活動を通して，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができる。	地域に関わる活動を通して，それらに親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりしようとする。
内容のまとめりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域に関わる活動を通して，自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かっている	地域に関わる活動を通して，地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えている。	地域に関わる活動を通して，それらに親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等
地域に出掛け，自分の身の回りには様々な場所があり様々な人たちが生活していること，そこには様々な仕事があり，それらの仕事に携わっている人たちがいること，それらの関係や，自分との関わりに気付くことである。	実際に地域に出掛け，地域で生活したり働いたりしている人々の姿を見たり話しを聞いたりするなどして，地域の場所や地域の人，それらが自分とどのように関わっているかを考えることである。	地域の人々や場所のよさに気付くとともに，それらを大切にする気持ちや地域に積極的に関わろうとする気持ちを一層強くもつことである。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自分の身の回りには，様々な場所があり，そこには幼児や高齢者，障害のある人など多様な人々が生活していることが分かっている。 - 地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所が自分たちの生活を支えていることや，それらが自分と関わっていることが分かっている。 - 地域の親しみを感じる人々や愛着のある場所が増えたり，それらの人々や場所が自分たちの生活を楽しくしたりしていることに気付いている。 - 様々な人々に関わったりする際，相手や場に応じた挨拶や言葉遣いをしたり，訪問や連絡，依頼を適切に行ったりしている。	- 地域の場所や人々を思い起こし，地域の様子について友達と交流している。 - 行きたい場所や会ってみたい人，してみたいことを思い描きながら，計画を立てている。 - 地域の場所におけるふさわしい行動を予想しながら，活動の計画を立てたり，約束を決めたりしている。 - 地域の場所や人々を自分の生活と関連付けながら，捉えている。 - 好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返りながら，友達や地域の人々などに知らせている。	- 地域の場所や人々に関わることへの関心や期待をもちながら，それらと繰り返し関わろうとしている。 - 地域の場所や人々に応じて，適切に接したり安全に生活したりしようとしている。 - 地域の場所や人々への親しみや愛着をもって，それらのよさを大切にしようとしている。

内容（４）公共物や公共施設の利用

公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気をつけて正しく利用しようとしている。		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
公共物や公共施設を利用する活動を通して、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。	公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができる。	公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらを大切に、安全に気をつけて正しく利用しようとする。
内容のまとまりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
公共物や公共施設を利用する活動を通して、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かっている。	公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりしている。	公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらを大切に、安全に気をつけて正しく利用している。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
生活の中にあるみんなで使うものの存在を、それらが目的に合わせて多様に存在することに気付くことである。	実際に公共物や公共施設を利用することでそれらのよさを実感し、役割や機能を自分や自分の生活とつなげて捉えることである。	公共物や公共施設を大切に扱い、安全で正しい利用をしていくことである。そのことに加えて、支えてくれる人々の思いや願いも大切にしながら、自分たちの生活に生かしていこうとすることである。
具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 身の回りにはみんなでするものやみんなのための施設や場所があることが分かっている。 - 公共物や公共施設について、多くの人が利用していることやそれらを支えている人々がいることが分かっている。 - ルールやマナーはみんなが気持ちよく利用するためにあること、安全に気をつけて正しく利用することが大切であることなどが分かっている。 - 公共物や公共施設を利用すると、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。 - 公共物や公共施設を利用する際、ルールやマナーを守っている。	- みんなでするものや場所を思い起こしながら、それらの特徴を捉えている。 - 行きたい場所やしてみたいことを思い描きながら、関わりたい公共物や公共施設を決めたり、計画を立てたりしている。 - 公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりしながら、それらを利用している。 - 公共物や公共施設の利用を振り返り、見つけたよさや働きを公共施設を支えている人々などに知らせている。	- 公共物や公共施設への関心や期待をもちながら、それらと繰り返し関わろうとしている。 - 公共物や公共施設の特徴に応じて、安全に気をつけて正しく利用しようとしている。 - 公共物や公共施設、それらを支えている人々に親しみや愛着をもち、大切にしようとしている。

内容（５）季節の変化と生活

身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けることができ，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わること気付くとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等
身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わること気付く。	身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けることができる。	身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
内容のまとめりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わること気付いている。	身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けている。	身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等
身近な自然の共通点や相違点，季節の移り変わりに気付いたり，季節の変化と自分たちの生活との関わりに気付いたりすることである。	身近な自然や行事に興味をもち，それらを観察したりそれらに関わったりすることを通して，そこには同じ性質や変化があること，異なる特徴や違いがあること，時間の変化や繰り返しがあること，などに注意を向け，自覚することである。	自然との触れ合いや行事との関わりの中で，気付いたことを毎日の生活に生かし，自分自身の暮らしを楽しく充実したものにしようとするのである。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 身近な自然の様子共通点や違い，季節の移り変わりに気付いている。 ・ 自分たちの生活の中には，季節や地域にちなんだ行事があることに気付いている。 ・ 身近な自然と自分たちの生活とが結び付いていることに気付いている。 ・ 自分たちの生活は，季節によって様子が変わること気付いている。	・ 諸感覚を生かして，身近な自然に関わっている。 ・ 四季の変化や季節の特徴を確かめながら，身近な自然を楽しんでいる。 ・ 季節による地域の特徴や人々の生活とのつながりを感じながら，地域の行事に関わっている。 ・ 季節は繰り返し変化していること，そのことは自分たちの生活とも関わっていることを振り返り，表現している。	・ 楽しみたいという思いや願いをもって，身近な自然と触れ合ったり地域の行事に参加したりしている。 ・ 身近な自然の様子や季節の特徴に応じながら，それらと関わろうとしている。 ・ 自分たちの生活が，身近な自然や季節の変化，地域の行事と関わっていることを実感し，それらを取り入れて生活を楽しくしようとしている。

内容（６）自然や物を使った遊び

身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫して つくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等
身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，その面白さや自然の不思議さに気付く。	身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることできる。	身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
内容のまとまりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，その面白さや自然の不思議さに気付いている。	身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつづけている。	身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等
遊びや遊びに使う物を工夫してつくることで，児童が，遊びの面白さとともに，自然の不思議さにも気付くことができるようにすることである。	試行錯誤を繰り返しながら，遊び自体を工夫したり，遊びに使う物を工夫してつづたりして考えを巡らせることである。	自分と友達などのつながりを大切にしながら，遊びを創り出し，毎日の生活を豊かにしていくことである。
具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 身近な自然や物は，いろいろな遊びに利用できることに気付いている。 ・ 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 ・ 自然の中のきまり，自然の事象の不思議さに気付いている。 ・ 約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 ・ みんなで楽しく遊ぶ際，道具や用具の準備や片付け，掃除，整理整頓をしている。	・ 楽しみたい遊びを思い描きながら，遊びに使う物を選んでいる。 ・ 予想したり，確かめたり，見直したりしながら，遊びに使う物をつつたり遊んだりしている。 ・ 比べたり，試したり，見立てたりしながら，遊びを楽しんでいる。 ・ 遊びの約束やルールなどを工夫しながら，遊んでいる。 ・ 遊びを工夫したり，友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り，表現している。	・ みんなで楽しく遊びたいという願いをもち，粘り強く遊びを創り出そうとしている。 ・ 友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして，遊びを楽しもうとしている。 ・ みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し，毎日の生活を豊かにしようとしている。

内容（７）動植物の飼育・栽培

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く。	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。
内容のまとまりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付いている。	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
動植物の飼育・栽培を行う中で、動植物が変化し成長していることに気付き、生命をもっていることやその大切さに気付くことである。	動植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味や関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願って行為することである。	生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして世話しようとすることである。
具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ・ 育てている動植物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ・ 生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ・ 生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。 ・ 動植物の飼育・栽培において、その特徴に合わせた適切な仕方では世話をしている。	・ 生き物のすみかの特徴を予想しながら、生き物探しをしている。 ・ 動植物の育つ環境の違いなどを意識しながら、育てたい動物や植物を選んでいる。 ・ 育つ環境と関係付けながら、観察したり世話をしたりしている。 ・ 他の動物や植物の成長などとの違いで比較しながら、表現している。 ・ 育つ場所、変化や成長の様子を調べたり、変化の様子を予想したりしながら、関わっている。	・ よりよい成長を願って、繰り返し関わろうとしている。 ・ 動植物の特徴に応じて、世話をしようとしている。 ・ 生き物に親しみや愛着をもったり、自分の関わりが増したことに自信をもったりしたことを実感し、生命あるものとして関わろうとしている。

内容（８）生活や出来事の伝え合い

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる。同時に、進んで触れ合い交流しようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとする。
内容のまとめりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かっている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
自分のことや伝えたいことが相手に伝わることや相手のことや相手が考えていることを理解できることのよさや楽しさが分かることである。また、双方向のやり取りを繰り返す中で、互いの気持ちがつながり、心が豊かになることも大切である。	相手のことを思い浮かべたり、相手の立場を気かけたりするとともに、伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して伝える内容や伝える方法を決めることである。	互いのことを理解しようと努力し、積極的に関わっていくことで、自ら協働的な関係を築いていこうとすることである。言語によらない関わりを含め、多様な方法によって能動的に関わり合っていこうとする態度を期待するものである。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自分のことや伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。 - 相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できるよさや楽しさが分かっている。 - 相手や目的に応じて、様々な伝え方があることに気付いている。 - 伝え合う活動において、適切な挨拶や言葉遣いをしている。	- 誰に伝えるかを考え、伝えたいことを選んでいく。 - 相手や目的に応じて、伝え方を選んでいく。 - これまでの体験を基に、相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫している。	- 自分たちの生活や地域の出来事を伝えたいという思いをもち、進んで触れ合い交流しようとしている。 - 相手の反応や状況に合わせて、多様な方法で伝えたいことや気持ちを表そうとしている。 - 身近な人々と関わることのよさや楽しさを実感し、多様な人々との関わりを自ら築いていこうとしている。

内容（９）自分の成長

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かること、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができる。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。
内容のまとめりごとの評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えている。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。
学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
体が大きくなるなどして心も体も成長したこと、技能が習熟し様々なことができるようになったこと、自分の役目が増え役目を果たすことができるようになったことなどに気付くことである。	現在の自分を見つめ、過去の自分と比べることで、自分らしさや成長し続ける自分を実感することである。また、自分の成長を支えてくれた様々な人の存在、自分の成長についての様々な人との関わりを明らかにすることである。	成長した自分を実感し、それを支えてくれた人に対する感謝の気持ちをもつとともに、成長の喜びが更なる成長を願う心につながっていくことである。それらは、それぞれの目標に向けて努力したり挑戦したりして主体的に関わるなど、意欲的に活動する姿になって現れてくる。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。 - 自分の成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりに気付いている。 - 優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、内面的な成長に気付いている。 - 自分自身のよさや可能性に気付いている。	- 過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比べている。 - 現在の自分と比べながら、自分自身や出来事を振り返っている。 - 自分の生活や成長について振り返り、自分なりの方法で表している。 - 自分の生活や成長について自分なりに表しながら、振り返っている。 - 成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりについて考え、感謝の気持ちを表している。 - 自分らしさを捉え、自分の成長に希望をもち、これからの生活について考えている。 - これからの生活について考えながら、自分らしさを捉えている。	- 自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返ろうとしている。 - 成長を振り返るために、手掛かりを見付けたり集めたりしようとしている。 - 自分自身の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、伝えようとしている。 - これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。

第2章 学習評価に関する事例について

1 事例の特徴

第1編第1章2（4）で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

○ 単元（題材）に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元（題材）の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧に示している。

○ 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

2 各事例概要一覽

事例 1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

1 単元を 1 内容で構成した場合の評価

「いきもの 大すき」(第2学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」)

第2学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」を例として、指導と評価の計画の立案から評価の総括までの事例を紹介する。

本事例は、内容(7)「動植物の飼育・栽培」の1内容から1単元を構成し、具体的な学習対象や活動に即して「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考にするなどして評価規準を設定している。評価の計画として特に、指導と評価の計画、三つの観点と評価の実際、観点別評価結果の総括まで、一連の評価活動を取り上げることで、生活科における指導と評価の概要が把握できるようにした。

事例2 キーワード 「知識・技能」の評価

「(単元名)」(第1学年 内容(9)「自分の成長」)

[illegible]

事例3 キーワード 「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」の評価

1 単元を 2 内容で構成した場合の評価①

「あきとあそぼう」(第1学年 内容(5)「季節の変化と生活」、内容(6)「自然や物を使った遊び」)

[illegible]

事例4 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」の評価

1 単元を 2 内容で構成した場合の評価②

「(単元名)」(第2学年 内容(2)「家庭と生活」、内容(8)「生活や出来事の伝え合い」)

[illegible]

生活科 事例 1

キーワード「指導と評価の計画から評価の総括まで」、「1 単元を 1 内容で構成した場合の評価」

単元名

いきもの 大すき

内容のまとめ

第 2 学年 内容(7)「動植物の飼育栽培」

1 単元（題材）の目標

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気づき、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

2 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。
小単元における評価規準	1	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。		①元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。
	2	②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに気付いている。 ③モルモットを適切な仕方で世話をしている。	①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。	②モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている。
	3	④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をし気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

本単元は、内容(7)「動植物の飼育・栽培」の 1 内容によって構成されている。本単元の中心的な学

習対象・学習活動をモルモットの飼育とした上で、内容(7)の「内容まとまりごとの評価規準」と「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に、単元の評価規準を設定した。

第1小単元は、モルモットに関心をもつことと、これまでの動植物の飼育・栽培経験を生かした様々な視点からのモルモットへの気付きを重視したいと考え、「知識・技能」①、及び「主体的に学習に取り組む態度」①の評価規準を設定した。

第2小単元は、本単元を中心となるモルモットの飼育活動であり、モルモットへの気付きを高めながら、モルモットに働きかけたり、状況に応じて関わり方や世話の仕方を変えながら飼育を継続したりする姿を見取る適切な評価機会を設定できることから、「知識・技能」②③、「思考・判断・表現」①、「主体的に学習に取り組む態度」②の評価規準を設定した。なお、「知識・技能」③は、モルモットの飼育活動の過程で身に付ける習慣や技能として設定している。

第3小単元は、上手に世話ができるようになったことへの気付きとともに、これまでのモルモットとの関わりを振り返り、世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、自分なりの方法で表現することと、モルモットへの親しみやこれからも生き物を大切にしようとする態度の育成を重視したいと考え、「知識・技能」④、「思考・判断・表現」②、「主体的に学習に取り組む態度」③の評価規準を設定した。

3 指導と評価の計画（16時間）

小単元名 (時間)	ねらい・学習活動	評価 規準	評価方法
ん な 1 か よ し 見て し 大 さ く わ く せ っ て (4)	・3年生からモルモットの飼育を依頼され、話し合う。 ・獣医師さんから、モルモットについての話を聞き、モルモットと関わる上で、気を付けなければならないことを知る。 ・モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしながら、モルモットを観察する。事例①	態① 知①	・観察カード、短冊カードの分析、発言分析 ・観察カードの分析、行動観察
し お 2 大 世 話 き く で な せ ん か よ (7)	・モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 ・モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。 ・モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現したり、友達に伝えたりする。事例②	知② 知③ 思①	・発言分析、調べ活動のメモやモルモットの世話の記録 ・行動観察や発言分析、モルモットの世話の記録 ・行動観察や発言分析、モルモットの世話の記録
モ 3 ッ た ぼ く ト し と ・ モ モ ル わ (5)	・これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。 ・世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、モルモットの本に表現する。事例③	思② 知④ 態③	・作品（モルモットの本）や発言分析 ・作品（モルモットの本）や発言分析、行動観察

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 知識・技能

生活科では、思いや願いの実現に向けた活動や体験の過程において気付いたことについて評価を行うとともに、それらについて、「無自覚から自覚化された気付き」「関連付いた気付き」「自分自身への気付き」などのように気付きの質が高まっているかについて評価する。

具体的事例① 第1小単元 見てさわってなかよし大きくせん

【学習活動】

第1小単元で、児童はモルモットと仲良くなりたいという思いや願いをもち、実際にモルモットに触れたり、えさを与えたり一緒に遊んだりしながら、観察する活動を行う。

児童は繰り返し触れ合う活動を行いながら、モルモットについての気付きを観察カードに記録していく。「ふわふわ」「あったかい」といった感触、「しっぽがない」「前足の指は4本、後ろ足の指は3本」などの身体的特徴、「鼻がぴくぴくしている」「かくれるのがすき」などの行動面の特徴、「マロンよりもメルの方がよく動き回る」「マロンは小松菜が好きだけど、メルはきゅうりが好き」などの個々のモルモットの性格や嗜好など、様々な気付きの自覚と蓄積ができると考えた。また、全体で、モルモットについての気付きを話し合いながら短冊カードに書き出し、比べたり分類したりして、モルモット掲示板に貼っていく活動も行う。これにより、気付きの共有や関連付けを促すことができると考え、学習活動を展開した。

【評価規準】

この学習活動においては、「知識・技能」の評価規準を以下のように設定した上で、その評価規準における具体的な児童の姿を想定し、評価を行った。

○知識・技能①

- ・モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。

※ 指導と評価の計画に示したように、第1小単元から第2小単元にかけて見とるので、モルモットの特徴に気付いていることに重点をおく。

○具体的な児童の姿と評価方法

- ・感触,身体的特徴,行動面の特徴,性格や嗜好など、様々な視点から気付いたことを書いている。
- ・モルモットのしぐさや鳴き声など、気付いたことを詳しく書いたり発言したりしている。
- ・モルモットと自分の関わりについて、気付いたことを書いたり発言したりしている。

(いずれも、観察カードや短冊カードの分析、発言分析)

【評価結果と判断理由】

A児の例

○評価結果：B

○判断理由：

A児は、学級みんなで育てることになったモルモットのメル(オス・5才)に触れることに興味があり、なでたりえさを与えたりすることに意欲的に取り組んでいた。しかし、観察カードには「さ

われてうれしかった。ふわふわだった。」「えさを食べてくれてうれしかった。」と、モルモットと触れ合った感想のみを記述していた。友達とモルモットについて発見したことを紹介し合う場を設定したが、次の観察カードの記述にもあまり変化は見られなかった。

そこで、A児がメルと関わっているときに、教師が「例えば、犬とメルではどんなところが違うのかな。」と問いかけ、A児のメルへの気付きを言葉で引き出したり、価値付けたりするようにした。A児は、教師の問いかけに答えながら、「体が小さい。子猫ぐらいの大きさ。」「足が短い。」「しっぽがない。」など、メルの身体的特徴に気付き始めた。次第に、「あまり速く走れないけど、ときどき素早いときもある。」「すぐにかくれる。」といった行動面の気付きも観察カードに書くようになった。

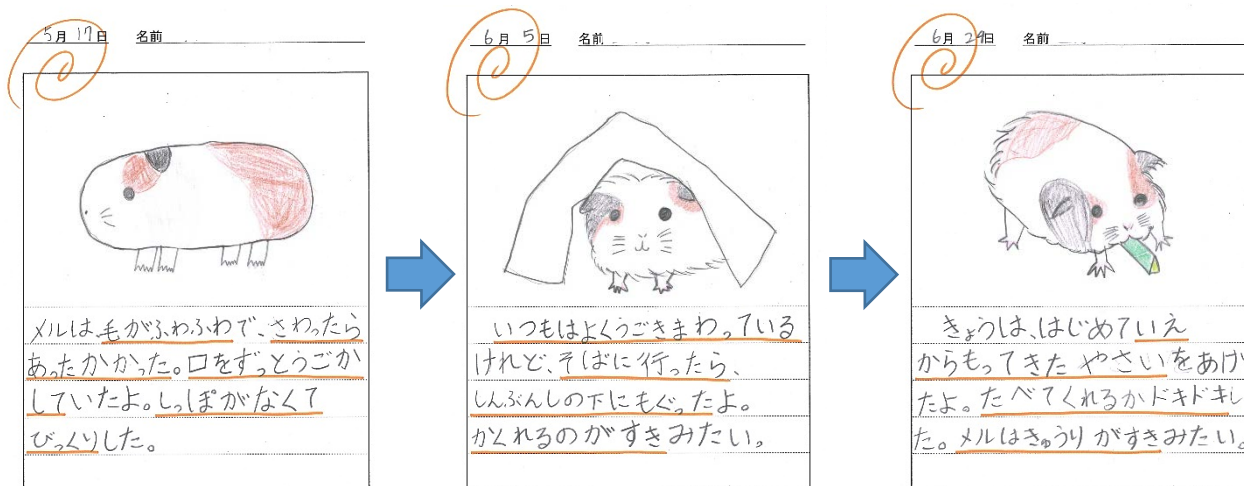
このように、A児は当初よりも様々な視点からメルの特徴に気付くことができるようになり、「努力を要する」状況から「おおむね満足できる」状況へと変容した。

B児の例

○評価結果：A

○判断理由

B児は、モルモットを観察しながら、「チモシー（牧草）をたくさん食べるよ。ねこじゃらしみたいな部分が一番すきみたい。小松菜よりもきゅうりが好きだよ。」「いつもはよく動き回っているけれど、そばにいったら、新聞紙の下にもぐったよ。かくれるのが好きみたい。」と、観察カードに絵と文で気付いたことを記録していった。B児は、繰り返しメルに触ったり、えさを与えたりしながら、メルの感触、身体的特徴、行動面の特徴、性格や嗜好など、観察カードに様々な視点からの気付きを書くことができた。



また、ある日、B児がビニル袋を開けてえさを与えようとしたところ、メルがケージの柵を飛び越えたことがあった。B児は「えさがほしくてケージを飛び越えた。『メルメルジャンプ』だ。」とそばにいた友達に知らせていた。メルがケージを飛びこえたのは、自分がえさを与えようとした際のビニルの音に反応したためと考えたのである。教師が、そのように考えた理由をB児にたずねたところ、「前に〇〇さんが『ビニル袋の音がするとメルは野菜がもらえると分かるんだ。』と言っていたから。」と答えた。

このように、B児はメルについて様々な視点から気付くことができおり、加えて自分と他者の気

付きが関連付けられ新たな気付きが生まれていることから、「十分満足できる」状況であると判断した。

（２）思考・判断・表現

生活科では、思いや願いの実現に向けて気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、多様な学習活動の中で「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの思考が働いているかについて評価する。

具体的事例② 第２小单元 お世話でなかよし大さくせん

【学習活動】

第２小单元では、モルモットの変化や成長の様子から、どのように世話をすればよいのかを考えながら、えさやりや水替え、掃除などの飼育活動を行う。ここからは、４人程度のグループを編成し、当番を決めて、日常的な飼育活動をしていく。

飼育活動を始めたばかりの児童は手順通りに世話をすることだけで精一杯で、モルモットの様子に気を配ったり、モルモットの立場に立って世話をしたりするところまで思いが至っていない。しかし、継続的な飼育活動を通して、次第にモルモットにとって適切な飼育環境を知ったり、自分の世話とモルモットの変化や成長の様子を関連付けたりして、世話をすることができるようになると考え、学習活動を展開した。

【評価規準】

この学習活動においては、「思考・判断・表現」の評価規準を以下のように設定した上で、その評価規準における具体的な児童の姿を想定し、評価を行った。

○思考・判断・表現①

- ・モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。

○具体的な児童の姿と評価方法

- ・モルモットの食べ具合を見て、えさの種類や量を調節している。
- ・モルモットの様子を見ながら、嫌がらないようになでたり、だっこをしたりしている。
- ・モルモットの立場に立って考え、モルモットが気持ちよく過ごせるように世話をしている。
- ・世話の過程で起きた問題の改善に向けて、世話の仕方を変えている。
- ・世話の仕方を獣医師や上級生に聞いたり本で調べたりしている。

（いずれも、行動観察、発言分析、モルモット日誌の分析）

【評価結果と判断理由】

C児の例

○評価結果：A

○判断理由

C児は、当番としてメルの世話をしているときに、「足の裏が少し赤い」というこれまでとは違う

メルの変化に気付いた。また、体重が 1020 g で他のモルモットよりも重いことから、「体重が重くて、足が痛いかな」と考えた。学級のみんなに報告して話し合い、メルのストレスにならないくらいに運動させることになった。

始めは、ケージの掃除をしている間にメルを走らせようとしたが、時間が短く、メルが動こうとしなかったりかくれてしまったりしたため上手くいかなかった。そこで、C 児がみんなに、メルが動き回れる場所を広くするために、段ボールで柵を作り、毎日一定時間をその柵の中で過ごせるようにしてはどうか、と提案した。みんなで話し合い、獣医さんからのアドバイスも基にして考えた結果、C 児の提案した方法を含めた 3 つの方法でメルのダイエットを試みることになった。C 児は、近所のスーパーマーケットで段ボールをもらってきたり、段ボールの柵づくりでは率先して声を掛けたりしながら、友達と協力して柵を作り上げた。それから、毎日午前中に、メルをダンボールの柵の中で過ごさせるようにした。やがて、メルの体重は 1000 g を切り、足の裏の赤みも改善した。

このように、C 児はメルの足の裏や体重の変化に気付き、さらにその改善のために飼育環境を工夫していることから、「十分満足できる」状況であると判断した。

（３） 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、粘り強く学習に取り組み、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価する。

具体的事例③ 第 3 小单元 ぼく・わたしとモルモット

【学習活動】

第 1・2 小单元で、児童はモルモットのことを知ったり関わったりして、モルモットの立場に立った世話の仕方がだんだんできるようになってきた。第 3 小单元では、これまで学んだことや感じたことを盛り込んで、自分だけのモルモットの本を作る活動を行う。ここで児童は、これまでの自分とモルモットとの関わりを振り返ることになる。

モルモットと関わり始めた頃の児童は、関わり方としてはやや自分本位な面が見られ、モルモットの立場に立った関わり方や世話の仕方にはなっていなかった。しかし、継続してモルモットと触れ合い、飼育活動を通して試行錯誤を続けるうちに、モルモットの側から考えられるようになっていたり、モルモットについて詳しくなったりして、上手に世話ができるようになったという自分自身の成長も感じる事ができた。

これらのことをより実感できるようにするために、これまでの自分とモルモットとの関わりを振り返り、そこから学んだことや様々な活動を通して感じたことを表現したり、自分自身の成長にも気付いたりする姿を期待して学習活動を展開した。

【評価規準】

この学習活動においては、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を以下のように設定した上で、その評価規準における具体的な児童の姿を以下のように想定し、評価を行った。

○主体的に学習に取り組む態度③

- ・モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

○具体的な児童の姿と評価方法

- ・モルモットとの関わりを通して得られた喜びや自信を表現している。
 - ・生き物に対して、これからも大切にしたり関わり続けたいという気持ちを表現している。
- (いずれも、モルモットの本の分析、発言分析、行動観察)

【評価結果と判断理由】

D児の例

○評価結果：A

○判断理由

D児は、自分とメルとの関わりを振り返って、単元終末にモルモットの本を作成した。その中でD児は、右のように、長期にわたるメルとの関わりから、やってみよう、がんばろうという心が育ったことについて書いている。

ぼくはメルからやってみる心とかんば
る心をもりました。せいふはだっこでな
かたけと、友だちがやっているのを見たか
てみようかなと思いました。せいふはしっ
ぽいをました。つぎに、手ぶくろをつ
けてやってみました。手ぶくろをつけた
かやれました。今では手ぶくろな
いでも、まふさんとはいほかの生
きものもやってみたいです。

D児は、初めはモルモットのことを怖がっていて、それでも関わりたいという願いをもっていた。以前の昆虫の飼育単元での経験を思い出し、手袋を付けたら抱っこができるのではないかと考え、実際にやってみるとできたことで自信をもち、関わることをできた。このように、思いや願いの実現に向けて、粘り強く関わることをできた。また、継続的に世話をする中で、手袋なしで抱っこしてみようという思いをもち、自ら外して抱っこを試みた。この姿には、自分の活動を見つめ直し、学習を調整しようとする姿が認められる。

さらに、D児は、休み時間にモルモットを見に来た1年生に対して、自分の経験を基に抱っここの仕方を説明していた。怖がる1年生には手袋をつけてモルモットを触ることを勧めたり、「慣れるとだっこできるようになるよ。」と励ましたりしていたのである。

これらの作品や言動からは、メルのおかげで成長できた自分自身に気付き、モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、これからも関わり続けようとしている姿を見とることができる。さらに、「こんどはほかの生きものもさわってみたいです。」と、生き物に関わる意欲を一層高めていることから、「十分満足できる」状況であると判断した。

5 観点別学習状況の評価の総括

資質・能力の育成の状況を適切に把握するためには、適切な評価規準を設定し、多様な評価方法を工夫するとともに、収集した評価情報を適切な時期にまとめ、その後の指導に生かしていくことが必要である。

単元ごとに観点別の評価を総括するには、チェックリストなどの記録簿にある記録に基づいて判断した「小単元における評価規準」の評価結果を足し合わせていく方法が考えられる。また、「小単元における評価規準」に重み付けをして集計する方法も考えられる。いずれの場合にも、「単元の評価規準」に照らし合わせたり、単元における学習の位置付け、学習活動の長短及び実施段階などを勘案したりして、「小単元における評価規準」による評価結果に軽重をかけることが考えられる。

「小単元における評価規準」は、「単元の評価規準」を分割して設定したものである。したがって、「小

単元における評価規準」の評価結果を集計すれば単元の評価結果が得られると考えられる。一方、行動観察及び学習カードや作品の分析などが中心で、結果や出来栄よりも活動や体験そのもの、つまり学習の過程が重要となる生活科の評価においては、分割したものを統合するという考えに留まらず、児童の学習状況を「単元の評価規準」に照らし、児童の学習状況の全体像（個人内の成長や多様性）を捉え直してみることも大切である。すなわち、単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉える長期にわたる評価も重要である。さらに、授業時間外の児童の姿の変容にも目を向け、評価の対象に加えることが望まれる。

単元の評価を行うには、それが簡便にできる、いわゆる集計簿などを作成しておくといよい。それについては、例えば、日々の評価を記録して「小単元における評価規準」を出すための表1、「小単元における評価規準」ごとにまとめられた評価結果を一覧できる表2などが考えられる。これは、学期末及び学年末の評価を行う際にも活用できる。なお、「小単元における評価規準」ごとの評価結果の総括をするには、表3に示した方法を考慮し、一人一人の児童の変容の姿を丁寧にとらえ、多面的に評価する方法も考えられる。

表1 日々の評価一覧（例）

小単元3 (5)	知識・技能④		思考・判断・表現②			主体的に学習に取り組む態度③	
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目
A児	—	C	—	B	B	B	B
B児	A	—	B	A	A	—	A
C児	B	—	A	—	A	A	—
D児	B	A	—	B	A	B	A

表2 小単元ごとの評価一覧（例）

小単元の 評価規準	知識・技能				思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	知①	知②	知③	知④	思①	思②	態①	態②	態③
A児	B	C	B	B	B	B	B	B	B
B児	A	B	A	A	A	A	A	B	A
C児	B	A	A	B	A	A	A	A	B
D児	B	B	B	A	B	A	B	B	A

評価の観点ごとの総括の仕方（例）

総括の考え方	具体的な例
全体の傾向を概観する。	・3つの小単元があった場合、A・B・Aなら「A」としたり、A=3、B=2、C=1として、合計点や平均値で判断したりする。
単元における学習の位置付け、学習活動の長短及び実施段階などを勘	・小単元①での評価期間が4時間、小単元②での評価期間が7時間、小単元③での評価期間が5時間ならば、小単元②での評価に重み付けをする。 ・「知識・技能」では小単元①の知①、「思考・判断・表現」では小単元②の

案して重み付けをする。	思①,「主体的に学習に取り組む態度」では小単元③の態③に重み付けをする。
一人一人の変容した姿を考慮する。	・小単元①がB,小単元②がB,小単元③がAの場合,変容した姿や成果を加味して判断する。